



ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会

洲本市中川原中川原28番地1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551

ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/fukurou/>

「友」の輪を広げる年に

新年おめでとうございま 普請となります。既に申請し
す。 冷たい風が身にしみる世 的補助の確定と秋の起工式
相の中です。生活保護の切り につなげるため大奮起の年
下げは「食費を削り、さら となります。役職員はもとよ
暖房も使えない」との悲痛な り、施設建設推進委員会に参
声も報道されています。介 加の各団体の皆さんと共同
護・障害者サービスの報酬の して頑張りたいです。

いずれにしても、厳しい改定 春先には中川原町に「淡路
が予測されます。 中央インター」が完成しま は働いたりつないだりする
淡路ふくろうの郷では障 害す。開通すると淡路ふくろう 「手」を意味しているとのこと
害福祉年金だけが収入とい の郷や中川原ふれあいセン でした。役職員はもとより、た
うたぐさんの低所得者の食 ターまで車で五分とかから くさんの方々の輪を広げるよ
事・部屋代の一部を福祉法人 なく なります。地域おこしめ う努めてまいります。皆さま方
が肩代わりする方が増加の ざして開通式には洲本市・地 のご多幸を祈念し、変わらぬご
一途です。 域の皆さまと一緒に祝い 指導ご支援をお願いして新年の
こうした中ですが新規事 に参加したいです。 あいさつとします。

業の展開、とりわけ神戸市長 年末恒例の「来年の漢
田区細田神楽町での新施設 字」は入居者などの投票で
建設の実現はふくろうの郷 「友」でした。揮毫された
二〇一八年元旦
理事長 大矢 暹

▲ 題字は、書道講座でボランティアでご協力いただいている寂光山金岳寺の真鍋圓隆住
職によるふくろうの郷生活の4本柱「くつろぐ」「遊ぶ」「学ぶ」「働く」です。
▲ 下段は地域交流会の方が作ってくださった立派な門松の前で。よい正月が迎えられました



▲元旦に入居者、職員、ボランティア18人が先山千光寺にお参りし、1年の健康を願いお餅を焼いて食べました。



濱田隆次郎さん
大正11年10月4日(95歳)

紳士服の仕立ての仕事をしていて腕がよく、名人といわれました。「来年はゆっくり過ごしたい。たくさんおしゃべりしたい」

年男・年女の の抱負



富永ゆき子さん

大正11年2月6日(95歳)

淡路島の旅館で仲居をしていました。食べることが好きで、「美味しいものを食べたい」



栴田澄江さん

昭和9年5月29日(83歳)

「手話でおしゃべりしたい。遊びにいききたい」
また、「琴平の家を見に行きたい。でも見たら帰ってくる。ふくろうの郷でずっと過ごしたい。ここは空気もいいし、ほっとする」



久野艶子さん

昭和9年5月10日(83歳)

「お喋りしたり、美味しいもの食べたい」。「自分のペースで生活していきたい」



船越利次さん

昭和9年1月28日(83歳)

若い頃は漁師をしていました。「会った時は声をかけてください。」



芝田かよ子さん

昭和21年1月23日(71歳)

「息子2人を頑張って育てました」。「今後も盲ろう者のリリアン会に参加して、仲間とお話する機会を増やしていきたい」



不動幸子さん

昭和9年12月22日(83歳)

保育士の仕事をしながら、子育ても頑張ってきました。ふくろうでは「行事に参加したり、ゆっくり過ごしたい。」



「犬も歩けば棒に当たる」でっいている日々をおくれる様に。犬のようにくんくんと介護の情報にアンテナを張っていきますように！
生活支援係 岩倉美喜

入居者の笑顔が見れる、美味しい食事作りを頑張りたいです。
調理栄養係 原田智子

「入居者も職員も笑顔になれる」そんな介護を目指します。
生活援助員 中村久香

人生の折り返し地点、仕事でも家庭でもゆとりを持っていいスタートを切りたいです。
生活援助係 浦手寛仁

新しいことにチャレンジし、視野を広げ、学び、吸収していきたいです。
生活援助係 山田紫和

職員の抱負

健康に留意し、利用者と一緒に色々な行事に参加し、交流したいです。資格取得を目指します。
おのころ屋 山田裕美

手話もまだまだ勉強中。一日一日を大切に、仕事を頑張つて成長していきたいと思っています
神戸ろうあハウス 谷淵 徹

資格取得するなど動き出す「起」の一年にしたいです。
相談員 竹原哲章

手話を覚えて話ができる様にしたいです。穏やかな一年が過ぎますように。
生活援助員 米山賢一

皆さんに喜ばれる介護のため、緊張と弛緩のメリハリある生活を心がけます。
神戸ろうあハウス 井口 聡美



▲「昔はよう槌とったんよ」と武内さん

恒例のお餅つき・しめ縄作り

毎年、中川原老人クラブ連合会、地域交流会の方々にご協力を頂きお餅つきと、しめ縄作りをしています。お餅つきは、昔ながらの杵と臼で行っています。

しめ縄は入居者さんや、職員で100本ほど作りました。最初「こんなんできらんわ」と言っていた入居者も作り始めると、すぐ昔作っていたことを思い出され、夢中になって上手に何本も作りあげました。出来上がったしめ縄



▲「友の漢字の成り立ちは手と手を取り合って・・・と説明する住職さん

(生活援助員 伊達・浅倉)



▲いつ覚えたのか、器用にしめ縄をなう山岡さん

は、ひとりひとりの居室に取り付ける予定です。最後に、毎年松栄寺のご住職を迎えて、入居者自治会の皆さんで選んだ、来年度の漢字を書いてくださいました。2018年度の漢字は、「友」です。来年も人と人のつながり・手と手を取り合うような年になるようにと願い「友」になりました。

クリスマス会



▲劇を終えて拍手に答える入居者さん、みなさんやり終えてとても満足そう

12月22日はクリスマス会です。午前中は入居者により手話劇「白雪姫」を披露しました。白雪姫役は花木ユニットの福島豊子さんです。福島さんは以前劇を演じたことがあり、「やってみたい」と話されていました。お妃役の吉見輝子さん、魔女役の政田きくゑさん、すっかり役にはまってお、みんな生き生きと嬉しそうに演じ、見ている人たちも大きな拍手をしていました。

午後からは、各ユニットでケーキ作りを行いました。淡路ふくろうの郷に来たサンタクロースにプレゼントをもらい、入居者はクリスマス的一天を笑顔で過ごされておられました。

(生活援助員 鈴川 晃司)



▲サンタさんの訪問に大喜びの浜田さん

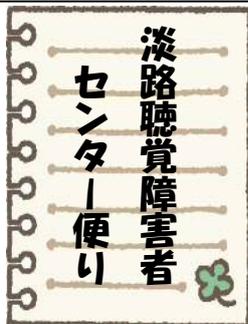
12月10日、神戸で開催された集会で京都への里帰り支援の報告をしました。

前田さんは当時ターミナルケアを受けられている時期でしたが、本人の「京都へ帰りお母さんのお墓参りがしたい」との

21 老福連全国職員研究 交流集会でレポート発表

希望を叶えるための支援でした。他施設からは「リスクの高い方の外出は職員間で同意が得られないことが多い。バックヤードがすばらしい、多職種連携ができていい事例だ」との感想をいただきました。

(生活援助員 伴 直美)



洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

12月23日(土) 中川

原ふれあいセンターにおいて、第2回目となる聴覚障害児とその保護者の交流会『みんなあつまれ！輪っはっは♪』を開催しました。2組7名の親子と、あわじ特別支援学校から2名の先生にもご協力いただきました。

みんなで作ったケーキは格別！

今回はクリスマスに合わせ、ツリーなどを作ったあと、パンケーキを焼いていちごサンタを飾り、みんなが美味しくいただきました。手話でお話したり、積木やかくれんぼをして、予定の2時間はあっという間に過ぎてしまいました。保護者の

第2回 みんなあつまれ！輪っはっは♪



▲さあ、材料混ぜておいしく作ろう！

方は、先生方と、日頃の悩みやこれから先のことについてお話されていたようです。保護者の方からは「今日の工作は自分でアイデアを出して楽しく取り組んでいた」「自分たちで楽しく作ってみんなで食べて、美味しさが増した」「年に3、4回開催してほしい」などのご意見、ご希望をいただき、また先生方からも「聴覚に障害のある子ども達と関わる事が出来良かった」「今後参加して、相談役になれば」「家族も参加で

きる企画で良かった」などです。次回の交流会に反映させていきたいです。

**今後は呼びかけ方
法や内容にも工夫を**

今後も継続して開催していくにあたり、参加者が増えるよう呼びかけの工夫や、子供の交流だけでなく親同士の交流、そして淡路島内だけでなく兵庫協青年度の方々にも協力いただいて兵庫県下の聴覚障害児との交流の輪が広がっていくような企画を考えていきたいと思えます。

(高木 恵理)



▲イチゴで作ったサンタさんやアンパンマンに子どもたちも大喜び

認知症を理解して 重度化を防ぐ

12/23
社会生活教室

第8回社会生活教室は、淡路ふくろうの郷主催の介護サポーター研修と認知症予防教室に参加し、ふくろう郷言語聴覚士の齊藤氏より「認知症について知ろう」をテーマに学習をしました。

認知症の症状にはどんな特徴があるのか知る

認知症にも原因となる病気などによって種類や特徴があることがわかりました。認知症は進行性の病気

日頃の生活から予防対策

で治すことはできません。料理を作るとか、適度な運動、外出をしておしゃべりするなどにより脳にいい刺激が伝わり、進行を遅らせることができます。本人は症状に自覚があり、つらいと思っているのに周りの人や支援者がどのようなことで困っているか考え関わっていくことが大切です、との講師の話。

聞こえないことで引きこもりがちになる高齢難聴者、今日のお話しをお聞きすると、ますます認知症の進行を早めるのではないかと危惧されます。

センターとして「聞こえの教室」を各地で開催していますが、加えて、高齢難聴者が集まり、おしゃべりしたり、得意な物づくりをするなどで交流できる機会をたくさん作る必要を感じました。
(川道 考子)



▲日頃の自分を振り返って診断してみよう



ふれあいセンター活動を通じ
中川原が目指すこと

昨年12月10日(日) 21老福連主催の「第17回職員研究交流集会」の分科会「地域包括ケアと総合事業」にてふれあいセンターの取り組みを報告してきました。

地域包括ケアとは簡単にいうと住み慣れた地域で①住まい②医療③介護④予防⑤生活支援が一体的に提供されるシステムを各地域で作っていくというものです(「地域包括ケアシステム」といいます)。

21老福連第17回職員研究交流集会で報告

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター



〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992

地域と法人が協働・共同で取り組む人と人とのつながりづくり

参加者からは「地域の方と取り組んでいるおたがいさまについてもっと聞きたい」「おのころの家と地域住民との関係が興味深い」等たくさん質問、感想をいただきました。介護保険の動きをみると「地域」が注目されています。今後も皆さんと一緒に地域のつながりづくりに取り組んでいけたらと思っています。(濱田良介)

今回の報告では地域・法人が協働で様々な取り組みを行っている、それは老若男女・障がいの有無を問わず人と人とのつながりづくりを目指すもので、それが地域活性化につながり中川原地域独自の地域包括ケアシステムとなっていけば、という内容で報告させていただきました。



障がいの有無・世代を超えた「食」での交流を目指す。



イオン洲本店から恒例のクリスマスプレゼント(右)ケーキを作り交流しました(上)



毎年年末になると、イオン洲本店から福祉基金という事でクリスマスプレゼントをいただきます。昨年12月22日、店次長さんと担当職員の方2人が来られました。12月の誕生会と合わせて一緒にケーキを作って交流をしました。イオン洲本店への要望やカードの使い方等わからないことを聞いたり、楽しく過ごしました。今年は、電子レンジと収納ケースをいただきました。

電子レンジ等の奇贈 イオン洲本店福祉基金 おのころの家

毎年12月に入ると、来年用の干支の色紙を作っています。子の年から始まり、今年で11枚目になります。最初20枚を予定していたのですが出来上がった色紙を見て、「私もほしい」という人があり、また6枚追加して作りました。(藤本職員)



戌年の干支の色紙

食事提供加算継続確定!

厚生労働省は来年度の障害福祉サービスの報酬改定で、障害者の就労支援等が提供する食事の負担軽減措置を今年度限りで廃止する方針を障害者団体などから反対が相次いだため撤回しました。(橋詰 一則)

デイサービス桜ヶ丘

▲地域の後藤朝一様が心を込めて作ってくれました。



▲戌の干支飾りを作り終えてうれしそうな顔をされるデイサービス利用のみなさま。



神戸事業所 **安心して暮らせる**
福祉施設を!!
共同作業所 神戸ろうあハウス
神戸ろうあハウス デーサービセンター
〒652-0897 兵庫県神戸市兵庫区駅南通5-4 西高架下16号
TEL & FAX ... 〇七八五七九〇七五五

**神戸市における
聴覚障害者福祉充実を**

**聴覚障害児支援検討会が
開催される**

今回のテーマは、「聴覚障害児のニーズについて」ということで、討議、意見交換がされました。

親の苦悩を踏まえた支援

大阪健康福祉短期大学の名誉教授小坂淳子先生から、実態調査に関わった立場からの報告がされました。聴覚障害児・難聴児の支援の柱のひとつに、その親御さん達の苦悩をふまえること。調査報告ではそれぞれ成長段階での親御さんの悩みが浮き彫りになったこと、また、難聴言語障害児親の会の会長でもある

母語となりうる言語獲得を

笹倉委員の発言では、特別支援学校を知らない、選択肢として示されない実態、また、知らされても、支援学校ではなかなか自分の子供の願う実情にない。

結局、子供たちは手話に出会うことがなく、自由にコミュニケーションできる場所がなく、行き場が分からないのが、子供たちの現状だとまとめられました。「豊かに教育を受けさせたい」とは親御さんの切実な思いです。そう思うとその前提となるコミュニケーション、母語となりうる言語の必要性や大切さを痛感しました。

放課後デイサービスの必要性

子供たち一人一人が本当に自分に合った言語を身に付け、それを通して考え想像し、学習できるよう支援する場、「居場所」として放課後デイサービスの事業開始を急がねばならないのです。子供たちの成長は待つてはくれないのです。

(眞木 崇江)



親御さんの願いは切実です！
聞こえない子供たちの豊かな発達への支援制度をつくっていかねばならないのです

プレート募金呼び掛けています
5万円以上ご寄附いただいた個人様、団体様のお名前のプレートを完成後の施設内に掲げさせていただきます

2017.12.23 現在の募金額
34,719,182円
目標額 1億円

年末年始 ふくろうの暮らし

- 1/14 (日) 兵庫県ろう者新年大会参加 加古川市
- 1/15 (月) どんど焼き
- 1/16 (火) ふくろう大学絵手紙講座
- 1/20 (土) 地域交流会手話講座
- 1/23 (火) 入居者自治会懇談会
- 1/26 (金) 料理講座・大根まつり
- 2/3 (土) 節分
地域交流会手話講座
- 2/5 (月) ふくろう理髪店
おのころ屋パン販売
- 2/13 (火) ふくろう大学書道講座
- 2/16 (金) ふくろう大学ちぎり絵講座
- 2/20 (火) ふくろう大学絵手紙講座
おのころ屋パン販売
- 2/17 (土) 地域交流会手話講座

ふくろうの郷研修・訪問予定

- 1月22~23日 国立リハビリテーション学院
研修訪問 向井 和子様
- 1月29日(月) 東京都 唯藤様 4名

ひょうご介護サポーター研修の開催

日時：平成30年2月10日(土) 10:00~16:30
午前 介護実習(車椅子体験・移乗等)
午後 介護実習(食事介助・レクリエーション)
施設見学・入居者との交流等

場所：淡路ふくろうの郷
参加予定人数：20名 参加料 無料
お申込みは淡路ふくろうの郷まで。
TEL0799-25-8550 FAX0799-25-8551